

平成30年度事業報告書

平成30年 4月 1日から

平成31年 3月 31日まで

特定非営利活動法人高次脳機能障がい者活動センター調布ドリーム

1 事業の成果

平成30年度は、事業所の建築と移転に向けて東京都への変更申請、調布市へ事業拡大移転の補助金申請、備品購入の為に東京都共同募金会、東京馬主協会への助成金申請などがあり、職員全体に大きな負担が掛ったが、トレーニーの皆さんに良い環境を作りたい一心で頑張った。

8月新施設に関して、調布市建築指導課より、都バリアフリー条例に基づいた改善が指摘され、建築資金の大幅増が判明し、一時は建築断念の話もあったが、施主と話し合いを持ち問題をクリアした。3月末に完成し4月1日に移転完了が確実となった。

また並行して三輪書店の地域リハビリテーション誌の調布ドリームのリハビリ紹介記事は12月まで1年間毎月掲載された。

合同卓球プログラムに関しては、味の素スタジアムの下に一時移転した多摩障害者スポーツセンターを8月から使用。毎回ではなかったが冷暖房の効いた体育館を利用した。ボッチャ・バドミントンも数回取り入れる事ができた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	<生活訓練事業> 各種グループリハビリプログラムやイベント参加などにより、リハビリ効果が上がった。利用者が少なかったこともあったが、就労に向けて広く各関係機関と連携できたことで支援体制が整った。	毎月の予定表に基づく	活動センター 西調布体育館 多摩スポーツセンター 西部センター	612人 2.5人 ×245日	高次脳機能障害者 1,715人 7人×245日	44,196
	<就労継続支援B型事業> ・リサイクルショップ「夢市」の運営。 ・ナスバ(NASVA)の受注郵送作業に電話アポイントを追加した。 ・新たに調布市メール便作業等を受託した。 ・協働して働くことやイベント参加などにより、リハビリ効果が上がった。 ・SSTが仕事に活きた。	毎月の予定表に基づく	活動センター 西調布体育館 多摩スポーツセンター 西部センター、	735人 3人 ×245日	高次脳機能障害者 2,205人 9人×245日	
	合同行事 ・大洗潤沼一泊研修旅行 ・地域の福祉まつりに参加 (染地・西部・調布)	6月 5・10・12月	いこいの村潤沼泊 染地・西部センター 調布駅前広場	7人 30人	23人 70人	
	新事業所の建設に伴う、 施主・設計士との交渉及び 補助金・助成金申請、事業 変更届、引っ越し準備。	30年4月 ～ 31年3月	・施主事務所 ・活動センター ・飛田給1-50-1	280人	0	

高次脳機能障害者とその家族への相談及び生活支援事業	電話及び来所等による相談及び支援	随時	活動センター及びNPO法人	60人	高次脳機能障害者及び家族 80人	6
	福祉関係者見学対応	随時	活動センター	40人	福祉関係者 50人	
	当事者会の運営	毎月第4土曜日	活動センター	当事者 80人	高次脳機能障害者 230人	
	家族会の運営 家族会代表：山田伸子氏	・毎月第3日曜日 ・調布市フリーマーケット & 調布福祉まつりに出店	活動センター 市役所前広場	家族 33人	家族 90人	
高次脳機能障害に関する普及啓発事業	ドリームサロン講演会のあと当事者と共に語ろうを開催。 트레이ニー運営委員が定着した。	4月、7月 12月	活動センター 多摩障害者スポーツセンター(味スタ内)	144人	一般市民・当事者・家族・医療・福祉関係 250人	280
	・月刊の「ドリームごよみ」等を関係機関に配布と郵送及びネット配信。・ホームページの更新・地域リハビリテーション誌に12月まで連載。	毎月	市役所、福祉センター、教育会館、地域自治会長宅、NPO事務局、三輪書店	200人	一般市民・当事者・家族・医療・福祉関係者 2,800人	
	毎月、ドリームごよみやイベント案内などが飛田給自治会の回覧板で回覧。	毎月	飛田給1～3丁目 1170世帯	36人	一般市民 2,340人	